

【早稲田大学バイオエシックス特別講演会】

カプラン先生ならびにエンゲルハート先生をお迎えして

主催：早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構（生命倫理科学ドメイン）
早稲田大学生命医療・法と倫理研究所

日時：2005年7月25日（月）10:00～12:00

Arthur Caplan ペンシルバニア大学教授（医療倫理学科長、バイオエシックス研究センター所長）

演題："Is Directed Donation of Organs from Living or Dead Persons Ethical?"

「生者から、または死者からの、レシピエントを指定しての臓器提供は倫理的か？」

日時：2005年7月27日（水）13:00～15:00

H. Tristram Engelhardt Jr. ライス大学教授（ベイラー医科大学名誉教授）

演題：Bioethics, Moral Pluralism, and Foundation of Ethics Critically

Rethinking Possibility for Global Bioethics

「バイオエシックス、道徳的多元主義、倫理学の基礎 グローバル・バイオエシックスの可能性についての批判的再考」

場所：早稲田大学小野梓記念館内・小野記念講堂（27号館地階）

法科大学院の新しい建物の地階です。アクセスについての詳細は、下記 URL をご参照下さい。

早稲田大学大学院法務研究科 / 小野梓記念館アクセスマップ：

<http://www.waseda.jp/law-school/jp/access.html>

参加費：無料

演者紹介

7月25日（月）午前10時～12時

Arthur Caplan ペンシルバニア大学教授（医療倫理学科長、バイオエシックス研究センター所長）

演題："Is Directed Donation of Organs from Living or Dead Persons Ethical?"

「生者から、または死者からの、レシピエントを指定しての臓器提供は倫理的か？」

[演者紹介]

アーサー・カプラン(Arthur Caplan, Ph.D.)

現在、フィラデルフィアのペンシルバニア大学エマニュエル・ロバートハート記念講座バイオエシックス担当教授、医療倫理学科長、同大学バイオエシックス研究センター所長。現代アメリカの最も著名なバイオエシックス研究者の一人。

1994年、ペンシルバニア大学に着任する前は、ミネソタ大学、ピッツバーグ大学、および、コロンビア大学で教鞭をとった。また、1984年から1987年までの間、世界最初のバイオエシックス研究機関である、ヘイスティングス・センターの副所長も務めた。

1950年3月31日、ボストン生まれ。ブランダイス大学卒業後、1979年にコロンビア大学大学院で科学史・科学哲学の博士号をとる。25冊の書籍、また、医学・科学・哲学・バイオエシックス・健康政策関連のジャーナルに引用される500本以上の論文の著者・編者でもある。日本語訳として、久保儀明・檜崎靖人訳『生命の尊厳とはなにか 医療の奇跡と生命倫理をめぐる論争（原書名 due Consideration : Controversy in the Age of Medical Miracles）青土社、1999 がある。

National Public Radio、CNN、MSNBC などの放送番組、the New York Times 紙、Washington Post 紙、Philadelphia Inquirer 紙、その他、多くのメディアでも、頻りにゲストやコメンテーターを務める。「ヒト・クローニング」に関する国連諮問委員会議長、米国保健福祉省「血液の安全性と有用性」に関する諮問委員会議長、「湾岸戦争症候群 (Gulf War Illnesses)」に関する大統領諮問委員会、国際オリンピック委員会「遺伝学及び遺伝子治療」に関する特別諮問委員会、米国化学協議会、米国立精神保健研究所「弱者を対象とする人体実験」に関する特別諮問会議のメンバーなど、国内外の数多くの委員を務めてきた。また、デュポン・バイオテクノロジー諮問会議のメンバーであり、多くの企業や消費者団体のコンサルティングも行ってきた。

米国メディカル・ライター協会のマクガヴァン・メダルなど褒賞多数。USA Today 紙の「Person of the Year-2001」、Modern Health Care 誌による「米国の保健医療に最も影響を与えた 50 人」、National Journal 誌による「米国のバイオテクノロジーに最も影響を与えた 10 人」の一人でもある。また、医科大学などから 6 つの名誉学位を受けている。ヘイスティングス・センター、ニューヨーク医学アカデミー、フィラデルフィア医師会、米国科学振興協会のフェロー。

研究テーマは、移植に関する研究倫理、遺伝学、生殖医療技術、健康政策をはじめ、バイオエシックスの諸問題全般にわたる。

7月27日(水) 午後1時~3時

H. Tristram Engelhardt Jr. ライス大学教授 (ベイラー医科大学名誉教授)

演題: Bioethics, Moral Pluralism, and Foundation of Ethics Critically Rethinking Possibility for Global Bioethics

「バイオエシックス、道徳的多元主義、倫理学の基礎 グローバル・バイオエシックスの可能性についての批判的再考」

[演者紹介]

H.T. エンゲルハート, Jr., M.D., Ph.D.

1969年に米国テキサス大学で Ph.D.、1972年にチュレーン大学メディカルスクールで M.D.を取得。医学哲学教授であったジョージタウン大学退職後の1983年以来、ベイラー医科大学・ライス大学の両大教授。

1988年から89年にベルリン高等研究所員。現在、米国ベイラー医科大学名誉教授、ライス大学哲学教授を務め、同大学医療倫理・健康政策センターのメンバーでもある。米国『医学哲学雑誌』の主任編集者であり、『クリスチャン・バイオエシックス』誌、叢書『哲学と医学』シリーズや『臨床医学倫理』シリーズ等を共同執筆。

主な著作に『Bioethics and Secular Humanism: The Search for a Common Morality (バイオエシックスと非宗教的ヒューマニズム: 普遍的道徳性の探求)』や、中国語、イタリア語、日本語、ポルトガル語、スペイン語に訳された改訂版『The Foundations of Bioethics (バイオエシックスの基礎付け)』がある。

近著に2000年刊の『The Foundations of Christian Bioethics (キリスト教的バイオエシックスの基礎付け)』等。250を越える著作、数多くの書籍・刊行物がある。また、世界中で幅広く講演活動も行っている。現在の研究は、医学、健康と疾病の近代的概念の発展、ヘルスケアにおける権利と責任の説明モデルに焦点が当てられている。

会場設営の都合で、ご出席予定の方は、下記 E-Mail アドレスまで、ご氏名・ご連絡先をご明記の上、出来るだけ早くお知らせ下さい。

お問い合わせ先: 河原 直人 (早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構)

E-Mail: naox@waseda.jp